

2013年度 決算説明資料

2014年5月12日

株式会社UACJ



1. 2013年度通期業績

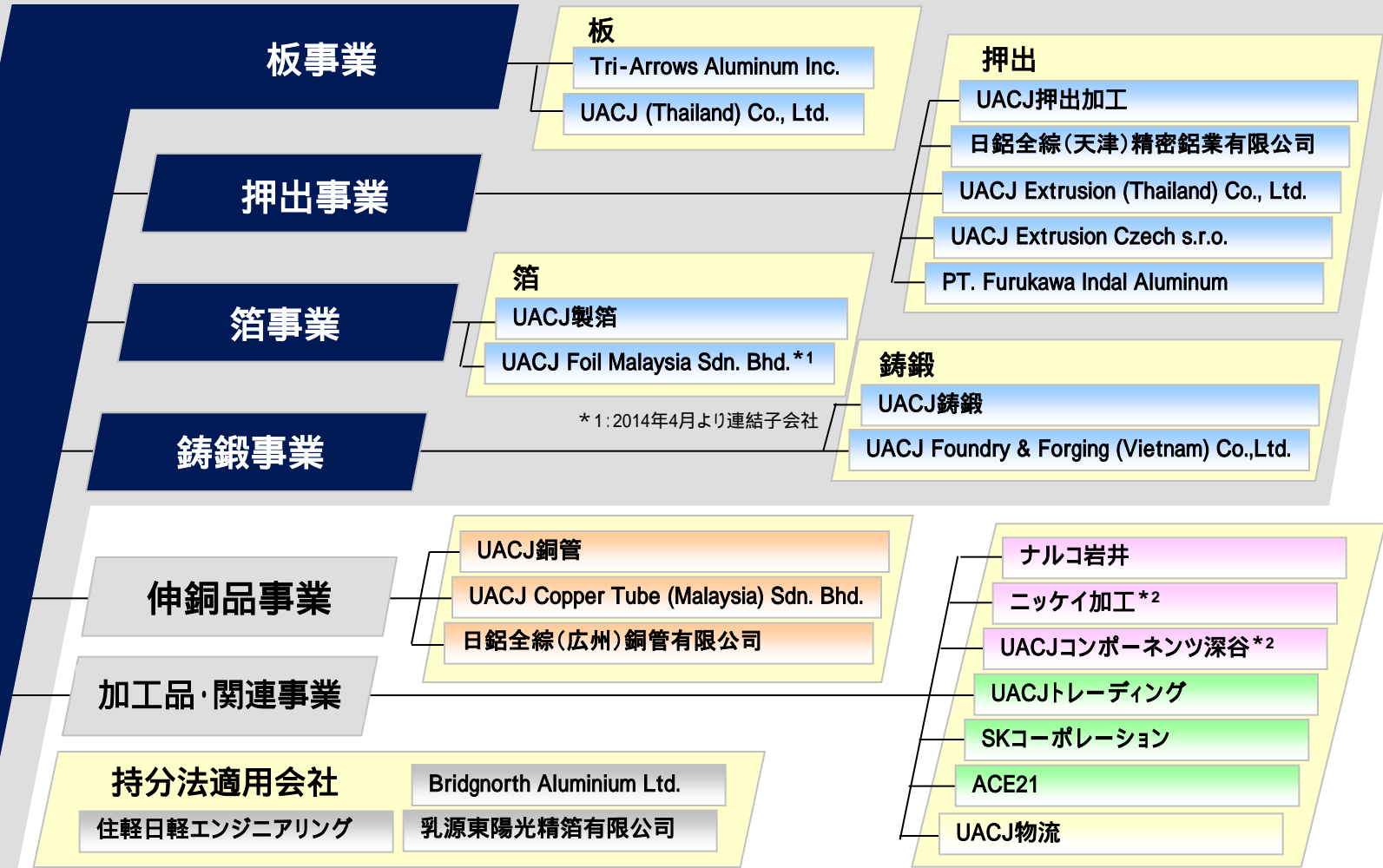
2. 2014年度通期業績見通し

3. グローバル展開と事業体制の整備

4. トピックス

1. 2013年度通期業績

アルミ圧延品事業



*1: 2014年4月より連結子会社

*2: 2014年7月合併予定

連結子会社 42社 持分法適用会社 5社

前年同期比(旧両社合算ベース)で売上高153億円増、経常利益37億円増

- アルミ板販売量は減少したものの、為替や地金価格の影響等により売上高は増加
- 電力・燃料単価の上昇によるコストアップ等があったものの、日光構造改革や統合効果等のコストダウン、棚卸評価の影響により経常利益は増益
- 特別利益: T A A 連結子会社化に伴う段階取得に係る差益61億円等
特別損失: 固定資産の減損損失48億円等

期末配当 6円 / 株

- 期末配当6円 / 株を予定
(普通配当3円、記念配当3円)
- 年間配当 9円 / 株

2013年度通期業績 (旧両社合算ベース)



2013年度以前は、決算短信上の業績数値ではなく、
旧両社合算ベース*での業績数値等を記載しております

(単位:億円)

	2012年度 (旧両社合算ベース) (A)	2013年度 (旧両社上期合算 +UACJ下期) (B)	増減 (B) - (A)
連結売上高	5,196	5,349	153
連結営業利益	221	250	29
連結経常利益	178	215	37
連結当期純利益	47	117	70

*旧両社合算ベース...旧古河スカイと旧住友軽金属工業の合算
(TAAHは持分法適用会社から連結子会社に単純組替)

セグメント別売上高・営業利益 (旧両社合算ベース)



(単位:億円)

	2012年度 (旧両社合算ベース) (A)		2013年度 (旧両社上期合算 +UACJ下期) (B)		増減 (B) - (A)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
アルミ圧延品	4,084	217	4,201	252	117	35
伸銅品	491	15	479	8	12	7
加工品・関連事業	1,542	28	1,478	40	64	12
(調整額)	921	39	809	50	112	11
合計	5,196	221	5,349	250	153	29

連結経常損益分析 (2012年度 2013年度)

(旧両社合算ベース)

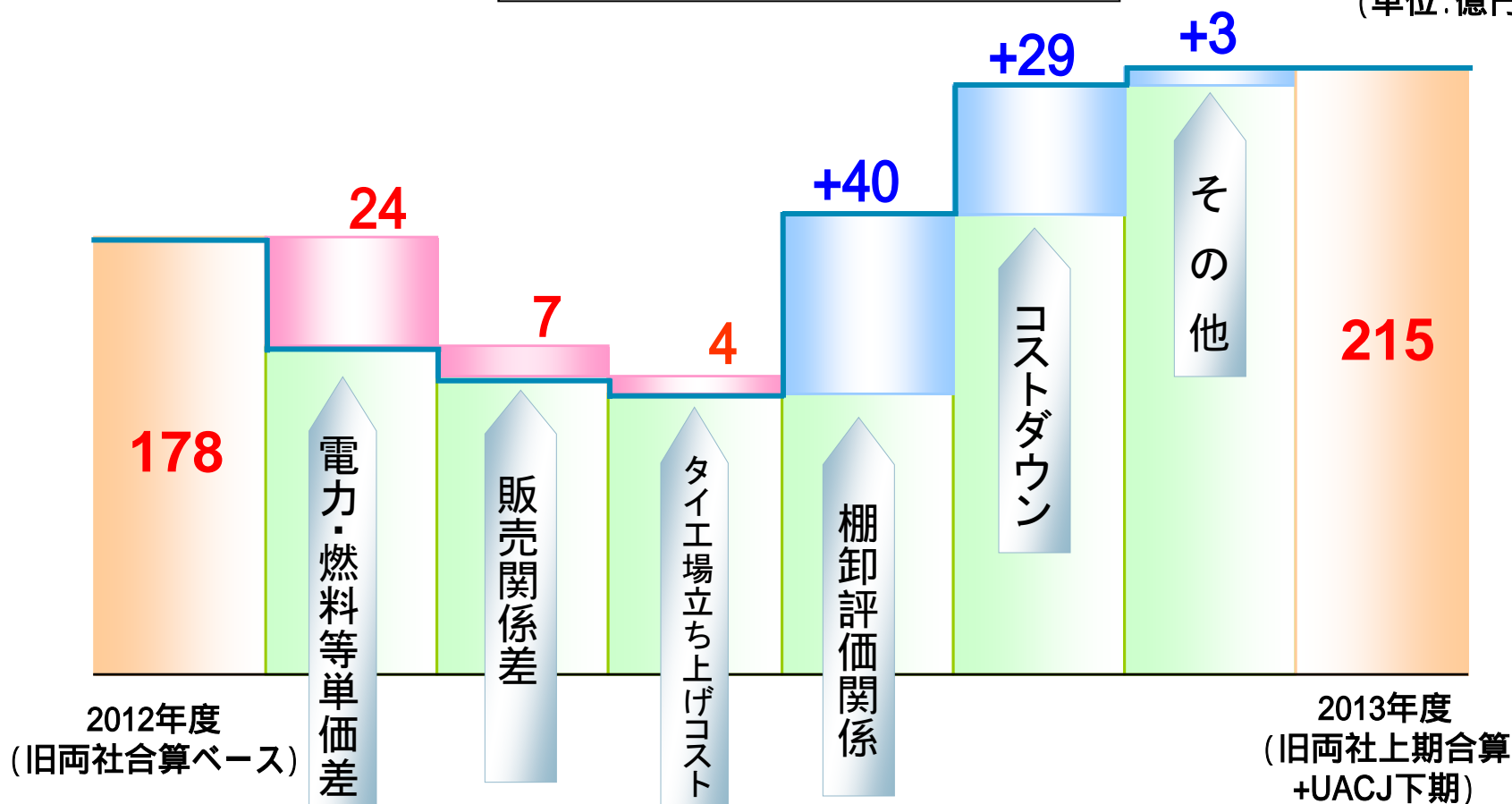


178億円 (2012年度 旧両社合算ベース)

215億円 (2013年度 旧両社上期合算+UACJ下期)

統合効果差 + 10億円を含む

(単位:億円)



アルミ板 品種別売上数量 (旧両社合算ベース)

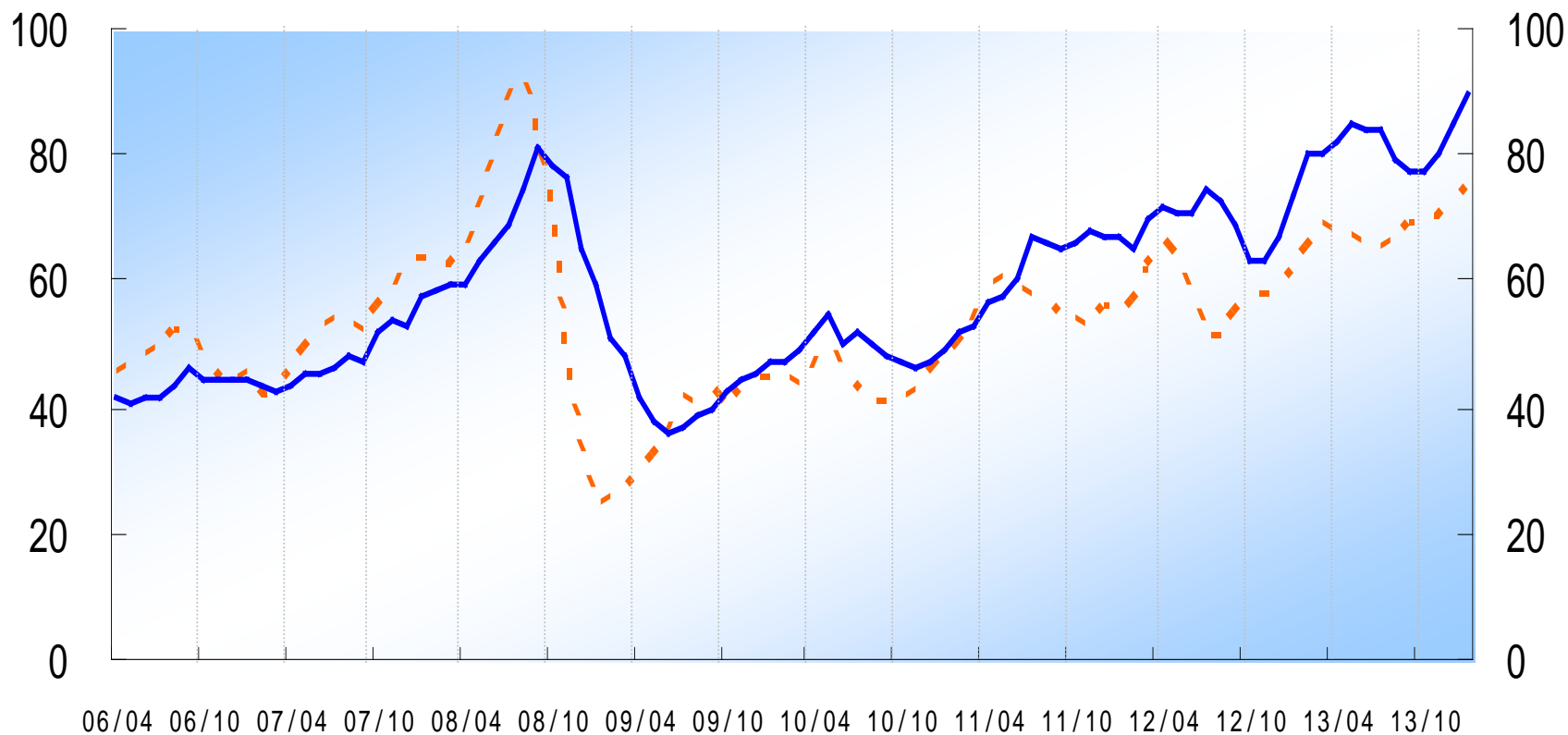


(単位:千トン)

品 種	2012年度 (旧両社合算ベース) (A)	2013年度 (旧両社上期合算 +UACJ下期) (B)	増 減 (B) - (A)
缶材	654	632	22
箔地	47	48	1
IT	38	18	20
自動車	75	72	3
厚板	31	39	8
その他一般材	155	151	4
計	1,000	960	40
	(国内市場向け 527 海外市場向け 473)	(国内市場向け 527 海外市場向け 433)	(0 40)

LNG CIF
(円 / Kg)

原油CIF
(円 / L)



— LNG CIF (円 / Kg)

- - - 原油CIF (円 / L)

アルミ地金日経平均・アルミ基準地金



	2014/3末
自己資本 (億円)	1,555
自己資本比率 (%)	25.6
有利子負債 (億円)	2,563
D/Eレシオ (倍)	1.65
ROE (%)	7.7

旧両社合算ベース

2. 2014年度通期業績見通し

通期業績見通し 売上高 5,600億円 経常利益 215億円

- タイ工場の立ち上げコストの負担や電力・燃料単価の上昇に伴うコストアップが見込まれるが、統合効果の早期実現をはじめとするコストダウンの実現、販売数量の増加等により、前年度と同水準の経常利益を確保

配当 年間 6円 / 株を予定

- 安定配当の観点から、配当は年間6円 / 株を予定
(中間配当3円 / 株、期末配当3円 / 株)

(単位:億円)

	2013年度 (旧両社上期合算 +UACJ下期) (A)	2014年度見通し (B)	増 減 (B) - (A)
連 結 売 上 高	5,349	5,600	251
連 結 営 業 利 益	250	255	5
連 結 経 常 利 益	215	215	0
連 結 当 期 純 利 益	117	95	22

諸元(2014年度):アルミ地金日経平均 243円/kg, 為替 100円/US\$, 原油 110US\$/B

セグメント別売上高・営業利益見通し

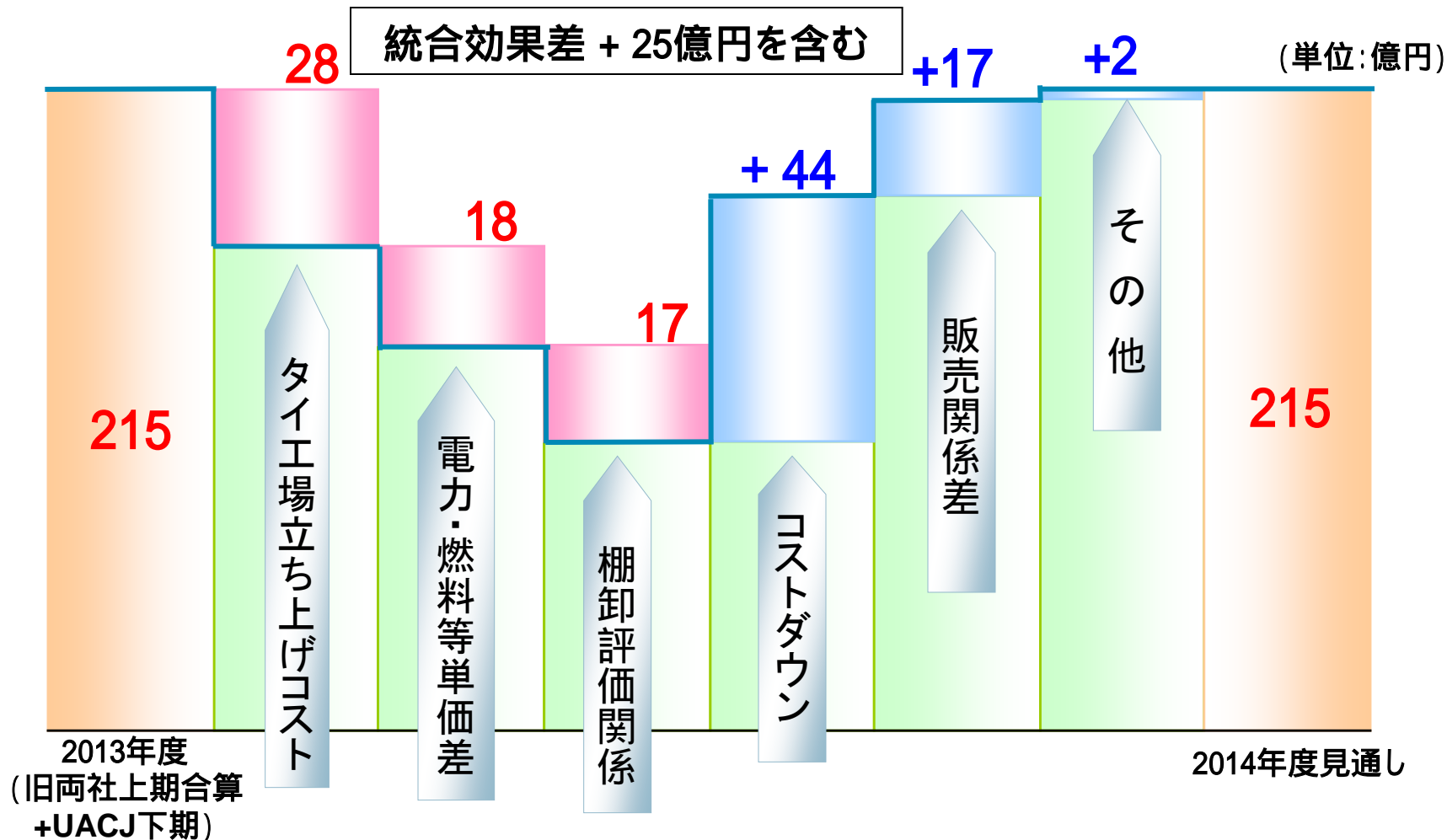
(単位:億円)

	2013年度 (旧両社上期合算 +UACJ下期) (A)		2014年度 見通し (B)		増 減 (B) - (A)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
アルミ圧延品	4,201	252	4,407	258	206	6
伸 銅 品	479	8	565	13	86	5
加工品・関連事業	1,478	40	1,520	38	42	2
(調 整 額)	809	50	892	54	83	4
合 計	5,349	250	5,600	255	251	5

連結経常損益分析 (2013年度 2014年度見通し)

215億円 (2013年度旧両社上期合算+UACJ下期)

215億円 (2014年度見通し)



アルミ板 品種別売上数量

(単位:千トン)

品 種	2013年度 (旧両社上期合算+ UACJ下期) (A)	2014年度 見通し (B)	増 減 (B) - (A)
缶材	632	656	24
箔地	48	49	1
IT	18	26	8
自動車	72	72	0
厚板	39	49	10
その他一般材	151	144	7
計	960	996	36
	(国内市場向け 527 海外市場向け 433)	(国内市場向け 525 海外市場向け 471)	(2 38)

		2013年度 (旧両社上期合算 +UACJ下期)	2014年度 見通し
設備投資	一般投資	133億円	130億円
	戦略投資	164億円	266億円
	合計	297億円	396億円
減価償却費		230億円	234億円
戦略投融资		21億円	未定

3. グローバル展開と事業体制の整備

■ UACJ (Thailand) Co., Ltd. ラヨン製造所 第1期操業を開始

2014年1月より第1期操業(冷延以降工程)を開始

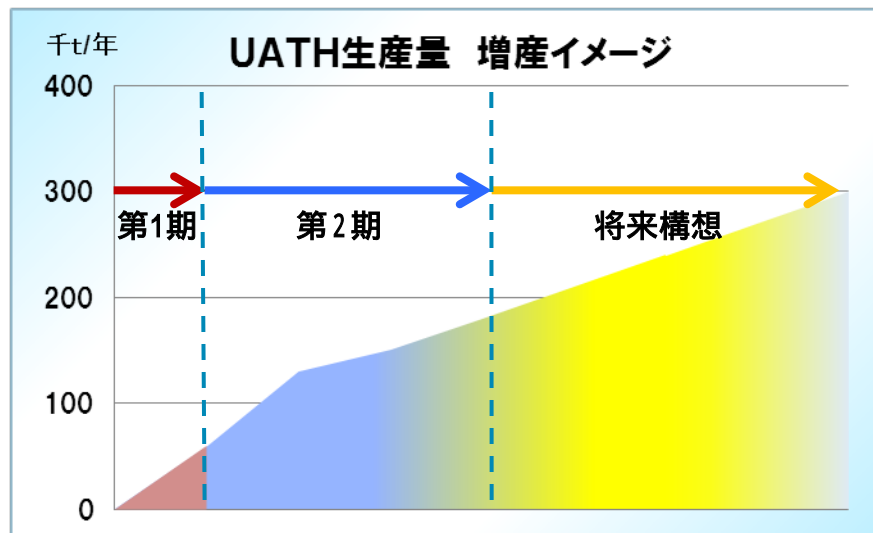
2015年度より第2期操業(鋳造工程からの一貫生産)を開始

確実な成長が見込まれる東南アジアとその周辺地域に板圧延品を供給
高品質とコスト競争力を両立するアルミニウム板製造のアジアにおける
基幹工場

今後需要増加に応じて設備増強も検討



建設中の熱間圧延ライン



■ 箔事業で東南アジア市場に進出

UACJ製箔がマレーシアの箔会社を買収し、2014年1月にクロージング
会社名は「UACJ Foil Malaysia Sdn. Bhd.」

今後UACJ (Thailand) Co., Ltd. ラヨン製造所から箔地を供給し、東南アジア
市場における事業展開の戦略的拠点として展開



UACJ Foil Malaysia Sdn. Bhd.

■ 米国における自動車パネル用アルミニウム材事業を共同で開始

米国において、自動車パネルのアルミ化が本格的に進んできており、
将来大きな需要増加の見込み

自動車パネル用アルミニウム材の供給に関する事業を欧州Constellium社と
行うことを決定

投資額1.5億米ドルでケンタッキー
州に、仕上げ連続熱処理ライン
および表面処理ラインを新規設置
予定

冷間圧延コイルをTri-Arrows
Aluminum Inc.のLogan工場と
Constellium社ヌーフ・ブリザック
工場(フランス)より供給
2016年第1四半期に生産開始し、
生産能力10万トン/年の予定



< 方針 >

- ▶ 環境の変化に柔軟に対応する運営体制の構築
- ▶ 迅速な組織再編による事業競争力の維持・強化

■ 事業体制・運営の強化

板事業併設型の事業分社制

2013年10月に押出事業、箔事業、鋳鍛事業、伸銅品事業、加工品・関連事業を分社化

■ 箔会社を統合

2014年1月に日本製箔と住軽アルミ箔を統合しUACJ製箔を発足
UACJグループにおける箔事業の一体運営体制を構築
UACJ Foil Malaysia Sdn. Bhd.との連携による統合効果も発揮

■ 物流会社を統合

2014年4月にUACJ物流とエルコンポを統合
UACJグループにおける物流関連事業の一体運営を進め、統合効果を発揮

■ 加工品事業の体制整備

2014年7月に加工品事業統括会社を設立し、加工品関連事業の一体運営を強化
加工品事業統括会社は、国内外の協業体制強化、新規営業サポートと顧客開拓、
重複業務・費用削減などの事業を推進
同時に、UACJコンポーネンツ深谷とニッケイ加工を合併
UACJグループにおける加工品事業の統合効果の最大限発揮と、収益の最大化

グローバルコスト競争力の強化に向けて

効果 目 標	最適生産体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ 品種移管による製造コストの低減 ・ 物流の効率化などによるコストの削減 	85億円	年額合計 150億円以上
	生産技術・研究開発の融合によるコスト低減および新製品開発	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現場改善力の向上による生産性の改善 ・ 生産工程の改善などによる効率の向上 ・ 研究開発・技術力の強化 	30億円	
	購買コストおよび経費の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ 原料輸送効率の向上 ・ 燃料、資材などの集中購買の実施 ・ 事務所費用など管理費の削減 	30億円	
	その他効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループ内の連携強化による効率化 ・ 鋳鍛、銅管、加工品などの事業への派生効果の発揮 	5億円	

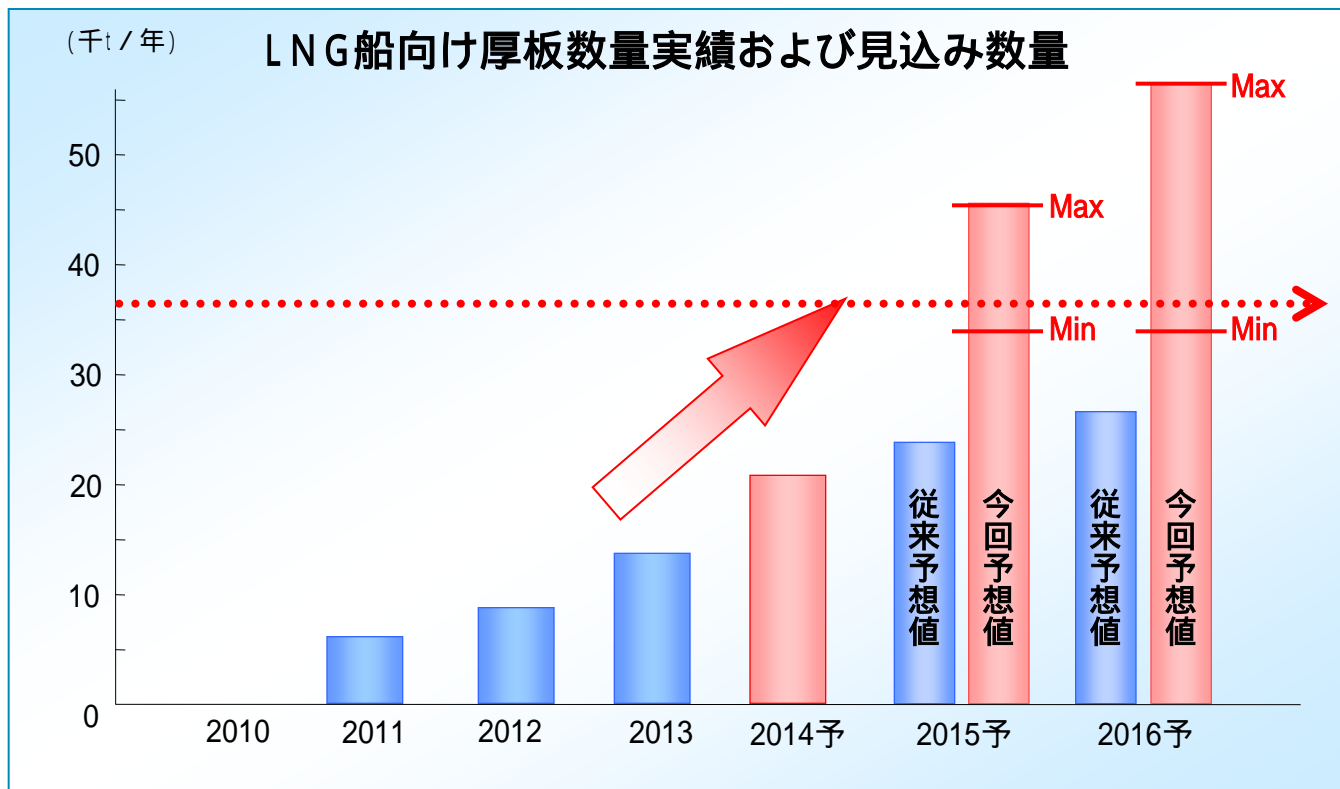
2013年度実績・・・10億円 / 年 2014年度見込み・・・35億円 / 年

今後、確実な実現とさらなる上積みを強力に推進

4. トピックス

2017年から米国産シェールガス対日輸出開始
 新建造LNG船は30~40隻の見込み アルミ厚板換算で約120~160千トン
 従来案件と2018年頃からのカナダ産シェールガス対日輸出分あわせると、
 2020年までに最大50隻必要と予想

日本経済新聞・日本海事プレスより



約36千t
 = 当社の製造能力

製造能力超過分は
 今後設備投資も
 視野に入れて検討

将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況、ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは今後様々な要因によりこれらの業績見通しとは大きく異なる場合があります、確約や保証を与えるものではないことをご承知おき下さい。また、本資料は投資勧誘の目的のための資料ではありません。

著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、株式会社UACJに帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

本資料ならびにIR関係の問い合わせにつきましては、下記までお願いいたします。

広報IR部 TEL:03-6202-2654 FAX:03-6202-2021

URL:<http://www.uacj.co.jp>

(東証1部 コード番号:5741)